

## 第5次原村総合計画の策定にむけて

ワークショップ実施結果

## 1. 『自然環境・生活環境』

[農林商工観光課、建設水道課、農業委員会]

### 【自然保護、生態系】に関する現状、問題点、提言など

- ・自然とはなにか？
- ・自然はこれ以上の別荘等は考えない。土地の利用、もう自然はない。
- ・植林されたカラマツを伐採したら、レンゲツツジが増えてきました。10年ほどになります。
- ・管理が不十分な森林が多い
- ・昔植えられた樹木が伸びすぎて、景色が変わってしまった。  
景観のためには伐採が必要な所もある。私有地であっても可能な方法はないか？
- ・保養ゾーンでは道路わきの伐採ができるような条例ができないものか。
- ・野焼きの禁止
- ・伐採を行っていると思うが、植えるものについてよく考えて植えているのか。
- ・自然との調和とは何か？緑被率、緑視率の考え方が重要
- ・美しい村を保つため、森林の手入れが大切だと思う。
- ・植林、樹種のせんばつ等。かん養、土砂の流出を防げる森林へ。
- ・森林の下草刈りなどにより、失われつつある植物の復活。
- ・自然環境、森林の保全。
- ・林の下払い、間伐材、不耕作地等の草の利用。
- ・森林の下草刈等の肥料化。
- ・森(森林)の整備
- ・村有林の開放
- ・森林の手入れ。薪ストーブの使用。
- ・森林の新陳代謝。村による薪の斡旋。
- ・森林及び木材の総合利用計画(観光、建築、エコプラントなど関係)
- ・れんげつつじ、山百合、桜草など(場所整備結果)
- ・自然林の保護。完全伐採の場所に配慮
- ・八ヶ岳自然文化園の施設の総点検
- ・八ヶ岳山麓への別荘等の規制。(自然を残すために)
- ・ゾーニングを担保するための強い環境保全条例の策定
- ・原村の自然を残すために、自然農(農業を減らす)多様性の維持。
- ・自然保護と産業(農業)のバランスのとれた発展(村の特色として)
- ・現在は鹿が大きな問題になっているが、過去から比べると小動物(うさぎ、リス)が減った。
- ・自然～環境の保全(生態系～各ゾーンにそれぞれ有るため)
- ・希少種の取り扱い
- ・自然は今のまま、40年前位にトンボ・ホタル・チョウの飛ぶ村にする。(化学農薬を使わない等)
- ・生物多様性の保全。環境の保全→結果が景観

### 課題、施策へのキーワード

- ◆村の自然及び生態系に対する認識の共有
  - 森林の手入れ(計画的、民有林ほか)
  - 間伐材の利活用
  - 山野草の保全
  - 別荘地の規制
  - 自然保護条例、規制の導入、見直し
  - 自然保護＝生態系保護
  - 住宅環境、営農環境の区分

【景観、美しい村づくり】に関する現状、問題点、提言など

- ・「星」をもっと活用できないか？
- ・「寒さ」を生かす方法はないか？
- ・砂利道を残して欲しい。
- ・地べたにソーラーは今後場所を選ぶ。
- ・ゾーニングごとに分けるのが×
- ・カラマツ等が高くなり景色(八ヶ岳)が見づらい。
- ・自然の美(雪形)など文化財にしてほしい。
- ・利便性を追求しない。
- ・「田んぼのある風景」を残したい！
- ・山の景観を活かす。
- ・電柱・電線の地中化 景観、富士山を見たい。
- ・電線等の地中化
- ・弘沢近辺の使えなくなっている蔵や古民家が並んでいる通りを若者が集えるカフェにリフォームして昔の街並みを美しく元気に復活。
- ・エコライン沿の景観の保全。原村の景観のある意味、生命線である。
- ・美しい景観づくり。景観条例を見直し、八ヶ岳の自然と調和するように色、建物、ハウス等も規制する。
- ・自然とは景観の事とし、村内特に原山、八ヶ岳裾には家が建たないように。(から松)
- ・自然保護、保健休養地内への住宅新築については、もう少し規制を強くできないか？
- ・森林内への住宅規制。なるべく集落内へ別荘も区域を限って作る。
- ・美しい村、道路端の看板の規制
- ・看板のあり方。規制の必要性。
- ・現代的な看板ではなく、原村らしい木の看板など古い感じを出す事 (例 Free range children)
- ・景観破壊、乱開発を規制する条例や法律の整備。
- ・保全地区以外の(にも)景観形成の策を。
- ・観光地としての景観を守るガイドライン(家まわり)
- ・農業も風景の一部 ←守るべき宝
- ・まず自分の家の回りの整理をする！したい！
- ・ガイドライン化、条例
- ・ソーラーパネル設置に村独自の厳しいガイドラインを。
- ・ペンション区の景観見直し(点検)
- ・日本で美しい村、地域条件2個以上は文化、昔ながらの芸能、郷土文化あるのか難しい。加盟は難しいと考える。
- ・美しい村づくり連合への加盟
- ・日本で最も美しい村
- ・日本昔話に出て来る自然でのんびりした人の輪のある村
- ・今ある自然環境を維持している。
- ・緑にあふれ、水・空気がきれいで、農地の活気に満ちた八ヶ岳の見える景観の良い高原。
- ・美しい自然と笑顔のあふれる住民が生活している村であって欲しい。
- ・10年後も星がきれいに見える村にしてほしい。(村の特性を生かしたイベント)
- ・今の景観が保たれていること
- ・自然を生かす
- ・循環型社会を目指す。自給自足のできる村。10年と言わず20年30年後を見据えた村。

課題、施策へのキーワード

- ◆景観、眺望資源として認識した景観保全への取り組みと法的規制の導入
  - 景観行政団体への移行
  - 景観計画、屋外広告物条例
  - 日本で最も美しい村連合への加盟
  - 住民協定、景観協定

【ごみ、リサイクル】に関する現状、問題点、提言など

- ・えんがわ、わらしべ文庫、貸し本屋(まちづくり)(ごみ減量)
- ・リサイクル品の保管、交換施設があると良い
- ・子ども服の交換
- ・リサイクルをいつでも村でやっている場所があれば良い
- ・ゴミの収集が余りにも遠い。
- ・資源物の出し方の検討。現在役場、各地区に月1回。
- ・ごみステーション等への多量投棄。
- ・ごみ、リサイクル、3Rの内、リデュース(必要以上の物を買わない)意識の向上。梱包方法の確認(企業など)
- ・生ゴミのリサイクル(各家庭)
- ・小規模資源物リサイクルステーションをつくり、常時回収する。
- ・資源ゴミは常時出せるコンテナがあると良い。物にもよるが衣料など。
- ・生ゴミリサイクルはコンポストでは限界があるので、村全体で取り組めると良い。
- 生ゴミの堆肥化→畑へ。
- ・生ゴミ処理機の普及を考える。(冬コンポスト使えない→電動→堆肥化)
- ・生ゴミをエネルギー化する。(ゴミ減量)→水素エネルギー
- ・子育てパパ、ママの交流につながるゴミ捨てなど
- ・各家庭にゴミ処理機などが配布できれば(コンポスト以外)
- ・ごみゼロの村を目指して行動する。生ゴミの循環など将来最終処分場が必要なくなるように。
- ・ゼロウェイスト宣言
- ・居住環境、家庭用焼却設備の研究。
- ・ゴミ回収の最終的解決。回収地がない。(別荘地において)→ゴミ

課題、施策へのキーワード

- ◆資源の有効活用、リサイクル環境の構築
  - 点在する住宅地とゴミ収集設備の点検
  - 原村内でのリサイクルの継続
  - 家庭ゴミ減量施策の推進
  - ゴミ収集体制、設備の見直し

【エネルギー】に関する現状、問題点、提言など

- ・自分の生活の見直し
- ・風力発電は効率が悪く、落雷、景観、バードストライクの問題が有り作らないでほしい。
- ・新エネルギー、風土にあった原村らしいバイオマス利用
- ・森林育成と就労(バイオマス／エネルギー)
- ・地域内で循環できるエネルギーへ。地中熱、太陽熱、太陽光など。使わない生活も考える。
- ・バイオマスエネルギー、バイオガス、バイオ水素生産の研究。
- ・木質バイオマス
- ・バイオマス、チップ、堆肥化プラント → エネルギー・リサイクル
- ・バイオマスエネルギーの活用  
(①燃やすバイオマス、②発電するバイオマス、発熱するバイオマス)
- ・間伐材による熱エネルギーの活用(初期投資はかかるが)
- ・間伐材で村の公共施設を作る等の取り組みをしたら良いと思う。
- ・循環型社会と言う事で発電の話があった。  
10年あれば可能だと思う。
- ・エネルギー太陽光発電(家庭用)の普及
- ・エネルギー問題は太陽光～地熱利用の検討を。
- ・自然エネルギーへの積極的取り組み
- ・太陽光も電力だけでなく、いろいろな方法も有る。  
風力など温水など。
- ・水素による地域エネルギー⇔生ゴミを原料とする。
- ・小水力発電普及のための水の見直し
- ・新エネルギー水道の活用
- ・上水道による発電
- ・太陽光発電は24時間発電できる訳ではないので、他の水力発電、バイオ発電等のエネルギー比率を考慮して取り組んだ方が良い。
- ・地中熱 → 地下水脈を活用し、熱エネルギーを取り出す。→ 農業用、融雪用
- ・中山間地の有効活用(バイオマスエネルギー)ソルガム等の栽培。→ 荒地を作らない。エネルギーを取り出す。
- ・省エネ、新エネルギーなど、新たなエネルギーの開発は是非とも必要と考えます。(バイオマス)
- ・利用後、処分できるエネルギーを！
- ・もう少し時間がたてば自動車の燃料はガソリン → 水素に変わっていくべき。
- ・再生エネルギーで村全体の電力をまかなうモデルビルレッジにする。(バイオマス利用などドイツの。)
- ・地域で使うエネルギーをまかなえるように！(薪、電気)
- ・エネルギーの村独自の自立
- ・村で完結できるエネルギー調達をつくる。
- ・地産地消で成立するエネルギープラントの検討(バイオマス、小水力など)
- ・村内の暮らしと産業に必要なエネルギーが自給できる村。
- ・自然エネルギーでエネルギーの自給自足を目指す。
- ・エネルギー自給の村
- ・バイオエネルギー等を利用した村のエネルギー自給率の向上した村づくり
- ・エネルギーの地産地消(木質バイオマス、森林手入れ、薪・ペレット他)
- ・エネルギーの自立。家庭のエネルギーの自立、産業分野のエネルギーの自立。
- ・持続可能な環境維持。エネルギー、産業。住民の生活が自立して営むことができるように。
- ・再生可能エネルギーの確立のために全力を尽くす。  
→ 地域存続の鍵
- ・省エネルギーのための行動を普及していく。
- ・資源の循環。まず抑制、出さない。(ゼロウェイストを目指す)LCAに基づいた評価と物づくり。
- ・エネルギー問題、村で電力会社を作ったら…。  
→ エネルギー自給
- ・循環型地域エネルギー“はらむらモデル”の創出と、これに「農業」「中山間遊休地」「副産物～商品」「観光」「雇用」「住環境改善」「工業」「地産地消」をポジショニングし、強い地域力をつくる。
- ・地域エネルギーは新エネルギー(バイオマス(熱)、太陽熱、地中熱、バイオマス(発電))、省エネルギー(必要熱の減量、断熱強化、新しいエネルギーを創るのと同じ位有効)
- ・新エネルギー、光→集光→発電、ゴミ焼却。

1000万～2000万プラント木内氏(佐久在住)

課題、施策へのキーワード

- ◆ 森林資源の有効活用、エネルギー自給の研究
  - バイオマスエネルギー
  - 自然エネルギー
  - 適正な太陽光発電設備の導入

【水資源、上下水道】に関する現状、問題点、提言など

- ・水質保全。下流に水を流す責任地として、きれいな水を流せるよう行動する。生活、産業連携して。
- ・原村の水道水は美味しいと思っています。地下水と聞いているが、いつまでこのままの状態が続くのか。
- ・水源が長期的に枯れないか不安。使用量と地下への浸透量の関係が不明。
- ・下水道の全戸普及(浄水ますをやめる)
- ・下水道未整備、地域の人口増は問題。何らかの歯止め。
- ・原山の上部は下水道設置の計画はあるか。
- ・農業としての資源の保全
- ・水のかん養が農林省事業にもある。
- ・自然地内の水の保全、又有効に使用できるよう
- ・阿弥陀水、村で売り出す。利活用。
- ・舟山十字路入った所、阿弥陀水を資源にはどうか。

課題、施策へのキーワード

- ◆水資源の維持と活用
  - 上水道の安定供給、水質、資源の維持
  - 下水道設備の計画的維持
  - 湧水の活用検討

【居住環境】に関する現状、問題点、提言など

- ・原村の空き家問題はどのようになっているか。
- ・リビングゾーンの土地、空き家等の調査をし、活用できるようにする。
- ・空き家になっている古民家等を活用できるための施策は？
- ・廃屋(空間)を造らない
- ・居住地区に公園などが少ない
- ・公園というものを作る必要はない。今の原村をなるべく都会的にしない。
- ・公園いらない。公園手入れ必要。手のかからない取り組み。

課題、施策へのキーワード

- ◆村内の空き家、新築動向、農地転用の把握
  - 集約型村づくり(住宅)の導入
  - 既存公園設備の維持、新たな公園の検討

【道路、公共交通】に関する現状、問題点、提言など

- ・「不便」なのもいいところ
- ・舗装道路はもう充分。
- ・道路状況は今のままで充分。
- ・道路、交通。茅野市、諏訪市へのアクセス改善
- ・除雪について、雪が降る度に道が狭くなる。
- ・雪道、日陰になる道を減らして欲しい
- ・特に冬場、歩道の確保が難しい。(私有地)冬の日当たりにも関係する。
- ・道路の融雪→高齢化社会のインフラ整備。自然エネルギーを利用する。
- ・生活道路の除雪が不十分。村の除雪計画路線に入っていない生活道路の存在。
- ・農道の規制、事故防止。
- ・歩道の整備
- ・村内すべての道が歩きやすい道となるよう、ウォーキングコースの充実。
- ・集落の中を主要道が通っている所は歩道を整備する。できない所は別ルートを作る。
- ・アスファルトをはがす道づくり
- ・通学路に土と草を！
- ・住まい近くの砂利道を道路に。
- ・ラウンドアバウト
- ・信号をなくす。ラウンドアバウト化。
- ・足の確保
- ・高齢化が進む原村では今後、公共交通が必要だが、そのしくみはいろいろな工夫が必要。
- ・通勤、通学に使う公共交通の整備。一人でもどこへでも行けるように。
- ・セロリン号の通勤・通学支援便は最終をもっと遅くできないのか。
- ・茅野から夜遅めの時間に、乗り合いで村に戻るバスの運行を日に1本でも。
- ・村内循環バスの充実(生活(各地区)に即したきめ細かい調査、アンケートの上に)
- ・公共交通はますます高齢化が進む中、もっと需要が高まると思う。
- ・高齢化に伴い、公共交通のバスの運行を是非多くしてもらいたい。
- ・公共交通のなさが漠然と不安。ボランティアの送迎に頼るのか。
- ・高齢化で村への買い物が厳しい家庭も多くなってくるので、原村・富士見などへの買い物バスなどを充実、通院の足を確保するためには？
- ・住み慣れた地域で生活をするためには、買い物へ行くなど高齢者の交通手段がほしい。(セロリンに乗れない人)
- ・健康づくり、医療について高齢者にとって病院に行ったりするのは大変である。村の公共交通をなんとかして確保してもらいたい。
- ・高齢者が外出できるように公共交通の運行をしてほしい。
- ・移動の支援。買い物で移動するしあわせ、選ぶしあわせのために。
- ・周りの人が交通機関に。(同じ方面の人を乗せていく)
- ・セロリン号、茅野と原村をつないでいるバスに自転車に乗せられないかな…
- ・村内の施設間の公共交通手段
- ・公共交通機関の充実
- ・公共交通の充実。
- ・公共交通の整備
- ・交通、バス増便
- ・バス待ちをコミュニティに。

課題、施策へのキーワード

- ◆生活道路の安全点検、計画的な道路管理
- 生活を支える公共交通の研究
  - 交通安全対策
  - 冬期間の除雪、安全対策
  - 計画的な道路改修
  - 生活交通、観光2次交通の研究

【防災、地域安全】に関する現状、問題点、提言など

- ・地区のコミュニケーション作り→最大の防災は地域のつながり。他地域からの流入は核家族化を進める危険がある。良いコミュニティを。
- ・自主防災、地域住民の全員参加の防災、地域内の周知を。
- ・自主防災活動。消防計画による運営。各区で実施する。
- ・自主防災活動を作る。各区の取り組み。
- ・日頃から近所との交流が大事！外から来た人も困らない地域作り。
- ・ハケ岳は自然災害の少ない所だと思うが、各戸の情報を各自自治体(区)がどれだけつかめるか個人情報の問題もある。
- ・海の津波以外の災害全ての種類の災害はあると思われる。防災組織の充実、強化を図るよう。
- ・防災組織の確立
- ・雪対策見直し(温暖化の中で)電線の埋設。雪で倒木。
- ・助けが必要な高齢独居者のケア(特に親類も近くにいない人)
- ・地域の独居高齢家庭の増加に伴う生活の安全確保。(夜間の安全確保)
- ・新住民と旧住民が交流しお互いに理解する。助け合う事ができるように。
- ・避難所は決まっても運営マニュアルが未整備。
- ・防災。最低でも各区公民館は避難所指定。
- ・想定した避難所が被災して機能しないケースを想定しているのか。
- ・要支援者のケアを前提とした避難計画は？
- ・消防団って楽しいよPR
- ・第5分団を立ち上げる。
- ・消防活動のための道路整備。4m道路のない場所がある。
- ・土捨場で土砂災害は発生しないか。
- ・自然を守る、人を守る。特に森林内。防火水槽の計画的な設置。

課題、施策へのキーワード

- ◆火災、自然災害を想定した防災計画の点検
  - 地域ぐるみの防災、減災体制の構築
  - 防災計画の点検
  - 地域コミュニティの形成と防災体制づくり(既存居住者、新規移住者の連携)
  - 高齢者、障がい者の防災体制の構築

【小中学校教育】に関する現状、問題点、提言など

- ・この自然豊かな環境を生かした特徴ある教育がどのくらいなされているか？
- ・地域の人と子供達のつながりが持てない社会となっている。(声もかけられない)このことを解決する為の何かが必要。
- ・豊かな人間形成を掲げるが、施策は物質的な手当てのみではないか？
- ・「豊かな人間」とはどんな人間なのか、共通認識づくりがまず必要。
- ・村に1つの小学校、中学校だから力を注いでほしい！
- ・安心できる教育施設の実現は継続を！
- ・空き教室の有効利用 設備開放
- ・中学校統合。合併と一村一校は別問題。
- ・一村一校の中で先生と生徒の関係づくり、何学年でクラス替えがあるのか。
- ・村立の高校の設立
- ・マイスター学校の設立
- ・放送大学のスクリーニング
- ・30人学級、少人数の方が良いので継続で。
- ・文化系教室の日曜開催(社会人が出席できるように)
- ・小・中学校の早期の改修工事の実施。
- ・会社に入って来る新人を見ると、言われた事はこなすが、創造力、企画力が弱い。小中学校で、この部分をアップできる教育をして下さい。
- ・農業を振興する村として食育の充実を図る。
- ・小中学校における外国語教育をもっと充実できないか。(勉強だけでない楽しさを教える。)
- ・海外で仕事をする人が多いので、ネイティブの英語を学ぶ場を増やす。  
(例:英語だけではなく、英語による数学、理科等。)
- ・学校での「総合の時間」をもっと有効に
- ・児童、生徒への教育(原村独自の授業)、情報(子供向け)提供。
- ・村の歴史や昔話を絵本に編さん、子どもへ伝える。  
(村の自然的な特徴なども)(職員)
- ・子どもの進捗、理解度別授業の導入
- ・部活動の時間がもっとほしい。
- ・子どもに教えたい内容+子どもが学びたい内容
- ・歩いて登下校する日(歩いて間にも合う)9:00スタート2:00終わり
- ・(子どもが)自分で自分のことを決めていい機会を
- ・放課後の過ごし方を自分で決めていい
- ・小・中学校の「総合の時間」の活用。(生徒と村民の交流)
- ・教育の場を「学校」「家庭」に限定させないように。
- ・教員(学校)、保護者、地域とのコミュニケーション、連携
- ・教育委員会と保護者の直接意見交換できる会をもった方が良い。
- ・ICTの活用、テレワーク等
- ・教員の残業が多い。改善を。
- ・支援学級の教員の充実、教員の高度な専門化
- ・複数担任での授業
- ・メディアリテラシー教育(職員)
- ・部活の講師の先生をもっと呼べるようにしてほしい
- ・学校の先生方が忙しすぎるのではと心配。→学習指導の研修(校内)など時間がとれるように。(地域の美化活動に引率はありがたいが不要なのは)
- ・スマホ対策で親の教育、又箸の持ち方まで学校で教えてほしいとPTAから出ている。親の教育が必要な時代。
- ・子供がネットを使う時代、親がもっと知識が必要。
- ・携帯、インターネットを禁止する方向ではなく、上手く安全に使える方法を子どもに伝えていく。逆に子どもから大人に便利さなどを伝えていき、お互い理解できる場を。(例:天竜村、インターネットおばあちゃん)
- ・保護者教育 親の教育
- ・不登校児童、生徒の為に常勤でなくても良いので、あるいは兼務でも良いので、スクールソーシャルワーカーを求められないか。(業務で茅野市1人、全県6人)
- ・不登校の子ども達へのフォローの充実
- ・不登校へのフォロー。学校に戻る支援と学校に行かずとも学べる場づくり。
- ・不登校、不適應の子ども達を支援する人材を発掘してはどうでしょうか。教員は忙しすぎて無理です。
- ・通学路を田んぼのあぜ道に。
- ・全員自転車通学可
- ・教育を大切にする村づくり。(人間性を大切にしたいものを)
- ・学校教育。全ての子供が基礎学力を身につけることのできるような支援。→塾との連携
- ・企画力、創造力のある子どもを…→成功するかしないかではなく、まずやってみられる機会を。(例:年50万、好きに使っていいよを考える授業)
- ・文化レベルを上げるため、原村どこでも図書館。  
えんがわ文庫、わらしべ文庫
- ・国際交流。子ども～大人の居場所。中国、英語圏
- ・地域行事を大切に
- ・家族への教育(育児、介護を人任せにしない)

課題、施策へのキーワード

◆教育施設、設備の改善と有効活用

- 子ども、親それぞれの立場への教育
- 学校施設の計画的改善
- 施設、設備の有効活用
- 地域郷土、教養など交えた教育

- 不登校等へのケア、フォロー体制
- 子ども、保護者、教員それぞれの立場への教育
- 地域ぐるみでの登下校支援

【生涯学習】に関する現状、問題点、提言など

- ・図書館は富士見のようにゆったりと広くしてほしい。つい富士見へ行ってしまふ。
- ・図書館の祝日開館
- ・公民館を利用する登録団体間の交流。文化祭と重なるが、村全体の文化的な動きを感じる事ができる。
- ・各資料館間の連携不足。村まるごとでの企画展とか。
- ・生涯学習、テーマの提案性
- ・生涯学習は村だけの組織でなく(集落との連携)各集落に組織体制をおき、村の指導により地区集落での行動の強化を。村全体の学習のレベルアップを。
- ・子供が中心の芸術教室?みたいな所、行事、ワークショップ的なものがほしい。

課題、施策へのキーワード

- ◆図書館の蔵書の充実、施設を有効活用した交流、生涯学習
  - 図書館設備の見直し
  - 生涯学習、イベント等活用支援
  - 子どもの集まれる場所づくり

【スポーツ、イベント】に関する現状、問題点、提言など

- ・村民スポーツ祭には全地区参加する。
- ・スポーツ祭や大会の規模を大きく
- ・村民全員が参加できるようなイベントがあれば。新住民と旧住民のふれあいが少ない。(例:森林マラソン)
- ・スポーツ祭の競技に、小学生や中学生だけの種目もつくる。
- ・星空の映画祭など。ボランティアへの支援(産業?)
- ・教育委員会はスポーツレクリエーションの施策に、福祉課と一緒に取り組んでは。
- ・1人1スポーツの推進をし、攻めの健康づくりの方法を作してほしい。そのため各集落の役場職員の指導をしてほしい。
- ・高齢者によるスポーツ団体を作り、諏訪地区で競技大会をする。
- ・スポーツ施設の充実
- ・設備のレベルアップ
- ・指導者確保
- ・広くて大きい遊具がたくさんある公園がほしい。学校の近くに。
- ・多目的のスポーツ施設だけではなく、専用のスポーツ施設も必要ではないか。
- ・学校のプールを一般開放できないか。子どもの数も減り施設を有効活用する必要あり。
- ・冬場の運動施設が少ない。トレーニングできるような施設がほしい。ウォーキングもままならない。(高齢者)
- ・送迎。子供達の足を確保。

課題、施策へのキーワード

- ◆多様な年齢、移住者等が区別なく交流できるイベントのあり方
- ◆健康づくりにつながるスポーツ振興
  - 住民同士の交流機会の創出、拡充
  - スポーツ、イベント活動への支援
- ◆気軽にスポーツを楽しめる環境づくり
  - 既存施設の活用
  - 指導者等の人材確保

【文化財】に関する現状、問題点、提言など

- ・村の文化財をもっとメジャーに！
  - ・遺跡、文化財Mapを作り、それをめぐるウォーキングコースを作り、HP等でアピールする。
  - ・バーチャル美術館HP
  - ・遺跡のもの、図書館、文化園、美術館等で展示を！入れかえをして。
  - ・博物館は人件費、維持費等かかるから必要ない。
  - ・世の中に自慢できる遺跡、文化財があれば(縄文のビーナス的なもの)
  - ・阿久遺跡やその文化を村のシンボリックな位置づけとし振興を図る。
  - ・埋蔵文化財の文化的意味を全村的なものにしてほしい。
- 具体的には収蔵庫の埋蔵文化財センター化。
- ・文化財、茅野(市で2つ、国宝全国初)、原村、富士見との連携を。
  - ・八ヶ岳、縄文文化。他市町との連携。
  - ・縄文を諏訪地域のものとしてPRしよう！
  - ・「縄文」は茅野だけじゃない！諏訪地域全体で「縄文の故郷」
  - ・阿久遺跡をもっと活用してほしい。
  - ・阿久遺跡の土器、石器の常設展示をする。
  - ・歴史を各地区で学べる歴史研究を進めてはどうか。  
鎌倉街道を御柱にちなんで復活を考える。生涯学習。
  - ・文化財は八ヶ岳山麓、茅野市・原村・富士見町で一帯に学べるよう。
  - ・縄文の「ヘソ」(中心地)原村
  - ・縄文時代から続く自然と人との共存。里山の形成。
  - ・阿久、縄文文化に学ぶ村

課題、施策へのキーワード

- ◆阿久遺跡など村の文化材を大切にすると同時に公開など有効活用
- ◆茅野市、富士見町など隣接市町と連携した観光活用
  - 文化財、発掘物等の公開の工夫
  - 歴史、文化に接する機会の工夫
  - 図書館、文化園、美術館等の有効活用
  - 観光資源としての活用研究

【子どもの居場所】に関する現状、問題点、提言など

- ・放課後、どこへも行く場所がない子がいる。家に来ている。
- ・騒げる居場所(図書館はダメ)
- ・放課後に集まれる場
- ・放課後、子どもが遊べる所をもっと増やす
- ・家の庭で遊び場やるからよろしく
- ・屋外型学童
- ・学童、児童クラブの予算をちょっと分けてくれれば外でできる。
- ・まずは週3日、外遊び(5~600万?)
- ・色々な世代の人が立ち寄れる場
- ・中学生、高校生の行く場所
- ・子どもの遊び場が少ない。
- ・友達と遊ぶ場所
- ・村内どこでもプレイパーク(遊び場)
- ・自然を壊せる場(遊びとして)
- ・日常的に自然の中で遊べる場
- ・遊べる山、森、川
- ・子ども目線の街づくり。歩いて行ける公園。過ごしやすい放課後。
- ・森の幼稚園の設置(原っ子広場?→小学生)
- ・子どもが地域に出られる場作り
- ・プレイパーク、冒険遊び場を充実(原っ子の森)毎日誰でも来ていい遊び場。
- ・「学童、延長保育」はつまらない、寂しいと子どもは感じてしまう。→「居ないといけない場所」ではなく、「行ってもいい場所、集まれる場所」なら子どもは楽しい。自然と見守り助け合う。例：“同じ空間にいられる”ぐらいの「広い施設」「屋外」「プレイパーク」
- ・自分の小・中学校の時は、自然の中で遊んだが、そんな場所を作ってやりたい。(例:林や森、川で遊ぶ)
- ・屋外型の放課後の居場所(保・小・中・高・大人みんな一緒に)
- ・(原山)乳幼児と親、地域で交流の場がほしい。砂場。
- ・子ども達をもっと外遊びをする機会をもつための支援が必要だと思う。
- ・遊びの専門性への注目
- ・村の中に中高生の居場所を作りたい。
- ・小中高生がいていい場所(図書館は騒げない)
- ・よく学びよく遊べる場
- ・自分の「やりたい」を応援してくれる居場所
- ・みんなで集まって騒げる場がほしい。今の小学生、中学生が卒業しないうちにつくるべき。「今」の村が住みやすければ戻ってくる。
- ・この10年で外遊びが減っている。今つくと10年後にはなくなる。
- ・「子育て」(親、大人)ではなく、「子育て」(子ども自身)を大切にできる村。(例:学童長時間はいいけど、本当に居たい場所になっているか?)
- ・人口減少の中、子供たちの笑顔、子供たちが増えるのが最高の望みだが…。
- ・子ども達を地域で育てるしくみを作る。みんなで子どもや子育て世代を応援する村。
- ・田んぼや畑、森、川、原っぱ(自然)を遊べる場所として残してほしい。
- ・自然を活かした子育て、森のようちえんをつくる。(富士見のような)→若者
- ・子どものことを大切にしている大人の姿を子どもに見てもらうことで地域を好きになると思う。大人が全力で子どものことを考える会議を大人と子ども一緒にやりましょう。

課題、施策へのキーワード

- ◆子育て支援につながる、子どもの居場所づくり
  - 原村内での子供の居場所づくり(小中高生問わず)
  - 森の幼稚園、キッズパークづくり
  - 地域ぐるみの見守り環境づくり
  - 学童クラブ等への支援、補助等

【子育て、子育て支援】に関する現状、問題点、提言など

- ・大学進学者への奨学金融資制度。卒業後の返済、Uターン者→半額免除、就農者→全額免除。
- ・奨学金の充実など
- ・高校生への支援
- ・高校生の通学支援。交通費
- ・地域における子育て支援をさらに拡大し充実していくためには、結婚して子どもを生むことができるように村営住宅の充実。若者、地場産業に。
- ・親による子育て→勤務地が近くに増えたら、子供と接する時間UP。
- ・原村独自の子育て支援
- ・「子育て」若い世代、子育て世代が原村で「子育てしたい」と思える施設やシステムは？
- ・子育て中の親のキャリアアップの支援
- ・職場での意識改革と協力。男性の意識改革の推進
- ・子育て支援に合わせて子ども自身の生活しやすさを考える。
- ・児童・幼児がいない家庭も子どもに興味を！（見守る大人）
- ・こども議会→子ども役場（あらゆる村の課題に意見を聞く）
- ・高齢者が増える中、子育て中の親子との交流があるといいと思う。
- ・夏休みの休日学童の日数増
- ・半日授業の日→地域の中で
- ・学童、原つ子広場から予算を少しずつ（年5～600万で）
- ・CM大賞への村をあげての参加
- ・病気の時の子供を預かるより面倒を見て欲しい。会社を休めない。
- ・延長保育の子と小学生、中学生も一緒にお迎えを待てる所があったらいい。（保育園に集まるとか。）
- ・子育てに悩む若いお母さんたちのたまり場、気軽に集まり話ができる場をもっと増やしてみたらどうか。
- ・子育てで悩める親の話せる場の充実（親育ちの場）
- ・学校から歩いて帰る子供達の下校時間に要所、要所に父兄が見守りできれば。
- ・地域の大人の見守りを（不審者？対策）→村の一体感が必要

課題、施策へのキーワード

- ◆子育て、子育て視点からの環境づくり、支援体制づくり
  - 進学支援、里帰り支援（経済的支援など）
  - 子育てに関する相談、共有体制づくり
  - 地域で見守る子育て支援体制づくり

【男女共同参画、ボランティア】に関する現状、問題点、提言など

- ・「男女共同参画」が全庁的な共通認識になっていない。教委のみの所管？
- ・男女共同参画、議員に女性枠を設ける。10人中4名とか。
- ・男女共同参画社会に意識改革を。（みんながみとめ合う社会）
- ・ボランティアの拡充化
- ・ボランティアへの支援をどう考えていますか？社協との関連も教えてください。
- ・ボランティアセンターを作ってください。
- ・保健補導員等の活動中のケガなどの支援

課題、施策へのキーワード

- ◆男女共同参画、ボランティア支援活動
  - 男女共同参画への意識改革
  - ボランティア支援の見直し、拡充

【健康、医療】に関する現状、問題点、提言など

- ・健康づくりに力を入れ、医療費の抑制を。スポーツ、食と連係したプログラムを。
- ・健康増進のための活動は？
- ・地域に入り込んだ健康づくりが必要。
- ・トレーニングジムや健康教室(定例)の拡充
- ・大人のラジオ体操。集落ごと場所を決めてポイント制にして、何かプレゼント。
- ・自分の居住区内で身体を動かせる環境。ウォーキング、ランニング、地区公民館等を使った教室。
- ・小中学校の総合学習で、がん対策のため予防教育をしていく。
- ・高齢者の健康維持、引きこもり、認知症予防などに対する更なる取り組みの強化。
- ・食生活改善を広める活動の現状は？
- ・健康食。栄養士。(小中、村が連携した)原村オリジナルの作成。地産地消。
- ・健保レセプトの解析と活用(予防医療への展開)
- ・5才児健診、特に心。
- ・ジェネリック医薬品の活用
- ・もみの湯を利用して温泉療法などできないか。
- ・エコラインより上に診療所がほしい。

課題、施策へのキーワード

- ◆健康づくりからの医療負担軽減を目指す取り組み
  - 健康増進、スポーツ振興施策の充実
  - 地元食材を利用した健康食品(メニュー)、栄養指導
  - 年齢に合わせた健康学習
  - 高齢者の健康ケア

【介護保険、医療費】に関する現状、問題点、提言など

- ・介護保険法の改正により、要介護3以上のみが特養に入れる事となるが、要支援、要介護1,2の人達に対する対応をどのようにするか。
- ・H27.4より介護報酬が引き下げられるが、介護事業者の運営維持に対する施策が必要。
- ・高齢者福祉、介護保険より下のランク、該当にならない人の対応を、民間社協、農協の委託化の方法で。
- ・高齢化社会への対応。きめ細かな対応。現、保健衛生自治推進協議会と同様な、高齢者福祉の自治組織を設置する必要がある
- ・医療費の無料化を続けてほしい。
- ・医療費無料化の見直し。上乘せサービス拡大。
- ・高校生無料は残す。65(70?)は診療所だけ無料。
- ・65歳以上の医療の無料化は予防につながっているのか。
- ・65歳以上と高校生までの医療費無料の財政基盤と今後の見通しはどうか？
- ・65歳以上の医療費無料化は現金ではなく、地域振興券など村内の店や事業所で使用可能な商品券で支給。
- ・65歳以上医療制度の見直し
- ・高齢者医療。長続きするための制度設計をしない。
- ・医療費の無料は年齢を引き上げる方が良いと思う。

課題、施策へのキーワード

- ◆医療費補助制度など村独自の施策の継続、制度概要等の見直しは必要
  - 長期継続制度への制度見直し、研究

【高齢者福祉】に関する現状、問題点、提言など

- ・独居老人、要介護の人達を村がどのようにみていくのか。民生委員、隣組。
- ・独居高齢者の把握。支え合いマップの作成は？
- ・独居の高齢者の方こそ支援が必要と思いますが、存在の把握はどうなっているのでしょうか。
- ・高齢者が3人に1人になる時代になる。予防事業に力を入れて行くことが大事。
- ・高齢者含む老若男女シェアハウス（例えば高齢と子育てを結ぶ）
- ・高齢者の安否は、もっとIT技術を活用し、迅速に把握したら？訪問確認はコストUP。
- ・老人の一人暮らし。老人世帯の見守り、訪問。
- ・iPad等による安否確認
- ・介護予防教室を卒業後の受け皿がない。
- ・認知症になっても暮らせる村になってほしい。
- ・認知症者のオープン化（見守るため）

課題、施策へのキーワード

- ◆高齢者福祉、支援体制の継続
  - 独居世帯のケア、支援体制づくり
  - 地域、組織が連携した高齢者支援

【障がい者福祉】に関する現状、問題点、提言など

- ・256人の身体障がい者がどんな生活を望んでいるかの調査は？
- ・障害者手帳を保有していないけれど、障がいがあるという方の把握はどうなっていますか。
- ・障がい者の働く場所の確保。
- ・障がい者の為の施設の改良。段差をなくす。（高齢者にも大切）雪の為出られなくなる時の対処。視覚障がい者の為の信号。
- ・総花的な項目UPではなく、メリハリをつけるべき。（例：高齢化対策、少子化対策、障がい者支援→財源の配分）高齢化は少子化により重たくなる。→子供に目を向けるべき。
- ・要支援外しに伴う総合支援事業への取り組みを急ぐべき。
- ・引き込みがちな人のためのレク事業は効果があるのか？公の場に対するトラウマをどうすべきかがポイントだ。悩み事相談の機会を増やす方が良いと思う。
- ・福祉。支える人の暖かさ今後も続けて下さい。
- ・冬は大変厳しいが、在宅介護サービスを充実させることは重要だと思う。
- ・傾聴ボランティアをしています。高齢の方を対象にしたカフェを作りたいのですが、場所・交通がネックです。場所を提供していただくとありがたく、送迎も援助していただけるともっとありがたいです。
- ・福祉・文化分野では良い所がある！続けていけるようにしたい！
- ・福祉施設の拡充

課題、施策へのキーワード

- ◆障がいがあっても安心して暮らせる環境づくり
  - 障がい者等級に関わらず、支援できる体制、制度設計
  - 防災上等安全対策からの障がい者情報の把握、適正な運用
  - ボランティア団体、支援活動団体等連携、行政支援

## 【農業の方向性】に関する現状、問題点、提言など

- ・安全で美味しい食文化を発信する村
- ・第一次産業を中心にした里山ビジネスを推進する村
- ・原村と言えば“農業の村”と認知された村
- ・農用地の保全と高度利用の方法として、新作物、薬草等の6次産業化
- ・6次産業化。生鮮品を加工する。技術、開発、高地野菜の活用。  
(例：ハーブと塩(セロリ))付加価値のある野菜作り。
- ・無農薬・無化学肥料による野菜、米、果物の生産を原村の特産にする。  
上記の農産物を用いた加工食品のブランド化
- ・農業を産業振興の中心として位置づける。
- ・魅力ある原村の農業と観光(ペンション、飲食店など)のきめ細かい連携→情報の共有
- ・原村は農業の生産地としてこだわる。
- ・農作物などのブランド化
- ・原村ブランドとは何かの問い直し。
- ・冬も生産するシステム作り。  
(例：ハウスで温泉を使って野菜を作る。  
バイオエネルギー等による保温等)
- ・地元のを地元で使う、食べる。  
(例：畑で直売！)
- ・原村の農産物の活用。食の健康づくりメニューの開発。成分分析に基づいた商品づくり。
- ・地産地消、村内の生産物の地産地消。村内→諏訪圏内へ広げる。
- ・農業と観光との連携。  
体験加工(野菜、豆、花)JA・農家・農場(文化園が連携をとる)
- ・農家が主役となるグリーンツーリズムの推進。  
農家民宿、農家レストラン、加工、販売。
- ・直売所、加工所(加工→販売)の必要性。  
村民の提案により、設置されることが重要。
- ・村主導でなく村民主導で行う。村は事務・経営指導。
- ・農業施設、農用地・農水路・農道の保全を原村全地区実行
- ・原村に農業担当部署に農業専門職をおく  
(職員では難しい)
- ・農業生産組織を集落部組織  
(北部,中部,西部,中東部)又は原村会社組織で。
- ・農家への宿泊体験
- ・自然農のクラインガルテン
- ・農業を教えてもらう場・機会が欲しい
- ・料理コンテスト→村の施設で販売(もみの木)
- ・原村の特産品を販売する拠点を作る。
- ・都内に直売所、朝→夕屋
- ・大阪、名古屋直売所、朝→昼
- ・農協の出品コーナー、自由農園の連携とれないか。  
(セロリ等)村外のものが多い。
- ・地域エネルギーによる暖・冷房コスト削減→利益率の上昇、雇用力の強化、安定経営
- ・農業施設へのヒートポンプ支援。省エネ、クリーンエネルギーでの栽培管理。
- ・中山間遊休地の活用→①バイオマス原料②特産品の生産③景観育成
- ・農業生産基盤の整備は広い目で見ると、治山治水の根幹の部分だと思う。今後も大切にしていってほしい。役場の役割も大切。今までの自治区の皆さんの努力も感謝している。
- ・農協(JA信州諏訪)の会合で、原村の野菜生産が、この地域でトップと初めて知った。→こういう情報を知りたい。発信して誇りにしたい。
- ・農産物の出荷先がJAに限られる傾向(自由農園等もあるが)
- ・農業振興、一時の集落農業はできなかったの、原村全体の団体・法人化を早く設立すべき。
- ・野菜づくりが当たり前の村(家庭菜園の支援、特に若い人だけの家庭)
- ・気候風土にあった農産物の生産
- ・第一次産業の発展。後継者支援。農地、農機バンク、コーディネーターとの連携。
- ・若い人の農業に携われる条件、計画などが用意されることが大事。
- ・農業＝治山治水。荒廃農地拡大。  
農業は儲からない。
- ・基幹産業、農業を元気にしたい。
- ・隣の人のために農業を行う。地産地消の村。
- ・おいしい、安全な作物
- ・農業従事者が増える(働く場、指導等)環境づくり
- ・安心・安全の野菜生産
- ・農地がいとも簡単に開発されないための規制。
- ・日本の食糧自給率を上げるのが急を要する。  
原村は農業の村で繁栄してほしい。

## 課題、施策へのキーワード

- ◆原村ブランドの再確認、地産地消による農業振興及び観光等連携した展開
  - 村の基幹産業としての再認識
  - ブランド展開の検討、強化

【新たな農産物、農業従事者】に関する現状、問題点、提言など

- ・セロリに専念
- ・付加価値の高い農産物
- ・加工に適した農産品
- ・信州、高地の利用の野菜
- ・地ビール、地酒製造業を興せないか。酒米、大麦の栽培。
- ・北欧、カナダ、北海道的→自然環境を活かした農作物→首都圏のレストランから受注システム→淡路でVILADESTプロバンス野菜
- ・長野県ワインバレー構想を視野に八ヶ岳ワインPiemont(ピエモン)を構想できないものか。原村を日本のブルゴーニュに。
- ・ハックルベリー(ナス科の実)を作る。ジャム、フランス料理
- ・エゴマブランドで村づくり
- ・えごまの栽培(オメガ3の活用)
- ・原村の地域でそれぞれ作物を作っているが、どういふ効果があるかわからないで作っている人が多い。私はエゴマの村を目指したい。村も是非協力してほしい。
- ・原村で一番多い(出荷量)セロリ、カリフラに続く農産物の開発。高齢者にも生産できる農作物の開発、推進。
- ・セロリも原村のブランド品として、人の目につく所でのアピール。
- ・特色ある農産物の生産、育成  
(例:富士見町のルバーブのようなもの)
- ・原村は野菜、特にセロリのイメージが強いが、花と野菜、果物が豊富といったイメージにしてほしいと思う。
- ・「富士見のルバーブ」みたいな「原村の〇〇」を作る!
- ・鹿牧場。生肉、農業を守る、料理。
- ・シカの牧場はとて素晴らしいのでは。富士見のルバーブのようにブランド化を。正直、農業の村はいくらでもあるので…。
- ・農業を教えてもらえる機会作り。農家を含めて働ける場所作り。
- ・農業後継者がいない家が増加。何軒かまとまって農地や機械を管理する。→農マッチング
- ・遊休農地、遊休農具を原村全体で有効活用する仕組みをつくる。(人との出会いが大切)→農マッチング・企業型農業を行い、若い労働者を育てる。人を集める。
- ・村独自に新規就農者支援策を拡充する。
- ・農業をやりたい若い世代に教える人がいない。→家族、親族以外でも現役の農家が誰でも教える。
- ・農業移住→仕組み、手当て、住宅、育てるサポート
- ・農業をやりたいターンを呼び込む!
- ・後継者の育成支援。県普及センターJAと村が連携し、相談・指導体制を整える。  
若者の提案がしやすい場を地域で設ける。

課題、施策へのキーワード

- ◆生産、加工、消費を包括して考えた農業展開、農業従事者、新規参入支援
  - 生産→加工につながる新たな農産物
  - 新規農産物の生産支援
  - 村営鹿牧場の創設
  - 農業後継者・指導者支援、新規参入支援(技術、機材、経済的支援など)

【農地、遊休農地】に関する現状、問題点、提言など

- ・農地の保全をどうするか。(遊休農地)
- ・優良農地が宅地化されている。
- ・農地面積の減少を止める。土地の利用を農業者(転用利用者でなく)の利用に確定する。
- ・田んぼや畑がずっとあってほしい。田んぼにカモ
- ・有機農業エリアをつくる。村の目玉に。
- ・遊休農地を活用して高齢者などを活用して、作物・果樹などを栽培し、福祉対策と連動した事業を考える。
- ・荒廃農地の利用。優良農地の転用は基本的に出来ないが、村で団地計画をして農地付きの土地販売。→建物以外は農地として管理。
- ・遊休農地の計画的(強制的)な利用計画
- ・農地の遊休化をしない。田んぼは全部作る。もち米、酒米に変えて作っていくことが大事。農業組合組織を作っていく。
- ・遊休農地、空く予定の農地の活用として、国産の薬草、大豆等の豆類の栽培。体験、加工につなぐ。
- ・遊休農地の活用
  - ①大豆→豆腐、みそ ②そば
  - ③小麦→パン、その他
- ・休農地はもったいない！  
→手のかからない植物を植える。遊べる原っぱに。
- ・休農地を有効活用して観光資源に！  
(例:茅野北山の赤そばみたいな)
- ・遊休農地の活性化

課題、施策へのキーワード

- ◆農業基盤、景観形成など多機能活用の検討
  - 優良農地、遊休農地の把握 →農地保全、転用の検討
  - 定住施策を考慮した宅地の確保、農地保全エリアの検討
  - 遊休農地の利活用、適正な管理(農業として、景観形成として等)



【工業】に関する現状、問題点、提言など

- ・原山などでも空き家が出てくる。
- ・IT関連のSOHO(Small Office,Home Office)の誘致の発信はできるかな？
- ・新規起業の推進(現在原村にない分野)
- ・食品加工業者の誘致
- ・日本へ生産を戻している企業が出て来ているので、原村へ誘致する。
- ・工場誘致
- ・工業誘致(原村ブランドをおこせるような)
- ・空気の清澄さを生かせるような工業(何かわからない)の誘致
- ・電力の安定確保ができる事と、地盤が固い事をアピールし、工業の誘致をする。
- ・県、東京事務所を通して原村にも工場を誘致してもらいたい。  
2工場くらいあれば良いのではないかな。
- ・優良企業立地促進、企業の誘致社の意見を募る。高速インターから最も近い位置でないと。(企業側の意見)
- ・自然エネルギーを活用する工業(?)
- ・【工業、商業】原村の中の企業や商業を含む内容をもっと住民へアピールできないか。(例:産業祭り)
- ・六市町村との連携。土地の活用
- ・脱下請け→新規事業開発への支援
- ・中部・関東・上越から中間地点の立地を生かした企業、流通センター。  
Net Reserch、Web Office center
- ・長野県は農業県よりも工業立県だと言う資料がある。
- ・企業誘致等は企業側の意見を、一番はインターが近い所を考えるべき。
- ・小規模な事業が沢山、活発に機能している村。

課題、施策へのキーワード

- ◆村の環境に適した業種、企業の誘致、起業及び企業誘致支援
  - 加工食品、醸造企業の誘致
  - 空き家、空ペンションを活用した企業誘致支援

【商業】に関する現状、問題点、提言など

- ・地域にとって必要なものの提供→何が必要とされているのか
- ・他県、他国が欲しいと思う魅力あるものを育成→情報発信、外貨を得る(域外)
- ・野菜の原村ブランドを作り売る。
- ・地元野菜の販売を地元で行い、“原村へ行けば新鮮な野菜が買える”イメージを作る。
- ・農産物の加工も原村内で行う。
- ・他市町での購入を村内に引き戻す
- ・商業地をさがしている人は多いが立地がない。グリーンライン弘沢富士見線は特にならない。利用出来るようにする。
- ・若者を呼ぶ商業施設はもう少しないと難しい(不便)
- ・カフェがほしい！ペンション、観光客向け以外にも住んでいる人が使う。
- ・屋外フェス(原フェス)
- ・期間限定でお店を呼ぶ。(例:3日間だけドンキホーテやIKEAを開く！)
- ・インターネット販売サイトの構築。「原天」で原村の特産品を販売。
- ・商店街エリアを作る→ハートマップ→Welcome Center
- ・日用品はCOOPで間に合うし、茅野、諏訪圏も車で15分~30分
- ・3番目の販売所
- ・お店ができてしまうと景観が悪くなってしまう。
- ・銀座のアンテナショップNAGANO徹底利用
- ・Ginza Nagano利用したPR。村の食と健康、環境のPR。

課題、施策へのキーワード

- ◆生活必需品、観光農業、イベント関連等ニーズに合わせた商業の検討
  - 地場産生産物の販売、飲食店等出店支援
  - 出店可能地の検討、確保
  - イベント、企業連携した臨時出店の支援
  - 銀座 NAGANO を利用した「原村ブランド」のPR,定着

【雇用・勤労者支援】に関する現状、問題点、提言など

- ・住みやすい原村
- ・若者が働ける環境整備
- ・「私、これができます！」の村民登録
- ・まち・ひと・しごとの創生をうたうならば、原村の人材をもっと村が活用すべき。(かくされた人材がたくさんいる。)
- ・シルバー世代の集落を作る。原山のように散らばっている人達をどうするか考える。
- ・移住する人の村行事、役割への参画
- ・新居住者の区への加入を。案内パンフ
- ・若い農業従業者を村外から誘致する。→魅力のある食物を作る。
- ・雇用、中小・零細が1社1人ずつ、採用を増やせるように支援、育てる。起業を支援する。
- ・障がい者の雇用の促進。あるものさがして雇用されること。地域社会の一員であるというつながりを持つ。
- ・村内企業の求人状況を見られるようにする。(場所、HPなど)
- ・今時雇用の充実なんて考えることは古い。まず実習者を増やす。
- ・原村に安心して働ける雇用先があるのか？創出
- ・企業型農業組織による運営をする。製造会社が農業をしている所が増えている。
- ・宿泊、シェアハウス
- ・村の産業がうまく連携できると良い。個々でがんばっても限界あり。アイデアがほしい。
- ・原村全体の高齢化に伴う話題：高齢化に対応して、健康、福祉、スポーツなど産業として注目したい。
- ・【全般】起業支援+育成→100億の会社を1つ(又は誘致)より1億の会社を100育てる。
- ・起業支援を活発に行う。→出来上がったものに支援するだけではなく、「やろう」とするものを支援する。
- ・第2創業、社内新規事業を支援する。
- ・産業支援の情報を末端まで浸透するようにする。
- ・事業に見合った収入源
- ・働くための育児支援を充実する。
- ・自然の中で都会と同じ仕事ができる環境作り→仕事
- ・住民が、各自の持てる能力を活用できる「場」づくり。①ボランティア②働く場(交流スペース)、企業など→能力
- ・機関(区ではなく新たな働く場)
- ・育児・介護(預ける施設は別として)があっても安心して働ける！

課題、施策へのキーワード

- ◆移住、定住促進に不可欠な要素の1つとして雇用、勤労支援の拡充
  - 村内の人材活用(農業指導、企業支援ほか)
  - シルバー人材の利用促進と高齢者の生きがいづくり
  - 農業、観光等基幹産業従事支援
  - 求人、起業情報など村内での発信、拡充

【地域、人のつながり】に関する現状、問題点、提言など

- ・子ども時代を楽しめる場所
- ・子どもに村の一員だと思ってもらう→子どもが村づくりに参加する。(村民全員が参加)こども議会からこども役場→村の問題全てを子ども達が話し合う。
- ・小学生「僕の友達は何歳ですか!」←0~100歳の人  
が仲良くしていることで、そう思ってもらいたい。
- ・10年後ではなく、「今」村にいてくれる子どもを大切に。村が好きなら戻ってきてくれる。
- ・帰ってきたくなる村、原村
- ・移住者が増えるのではなく、戻ってくる人が多い村。そのため、原村を子どものうちに好きになってもらう。(あそび、居場所)
- ・自然文化園は歩いて行けない。歩いて行ける場所は子ども、おじいちゃん、おばあちゃんも行ける。
- ・ちょっとくらい不便でも、村が好きなら戻ってくる。そして良くしようと村が好きなら動いてくれる。
- ・「うちでお茶していいよ」の家(子どもの駆け込みではなく、安心して寄れる)を村内に。かわいい看板とか付ける。防犯。
- ・登下校中に遊べる場
- ・見回りや通学路に立つのではなく、自然と外にいる人が知り合いで安心。
- ・今の子ども達、将来の子ども達が「好きだ」と思える地元にする。
- ・“地域で”子どもを育てる村
- ・あやめ園周辺にリーダーハウス付きのプレイパークを。
- ・屋内と屋外どちらも充実した子どもの居場所
- ・自然の中でみんなが交流している村
- ・多くの世代が交流できる公園を中心地に。
- ・「遠くから見守ってくれる親」がいいと思う。
- ・様々な面における親の教育
- ・高齢者のターンだけではなく、若い人が来たい村。
- ・若者から居住したくなるような魅力ある村に。仕事・住む所・福祉(子育て)
- ・医療・福祉は村独自の施策を、その他市町村と共同でできるものは共同で。
- ・まずは高齢者対策。「安心して老いを迎えられる村」
- ・お年寄りの生きがいづくりのため、伝承の場としての若者と年寄りの交流の場づくり。
- ・「ありがとう」「お互いさま」が飛び交っている村
- ・先ではなく今。10年間、いつでも「今」を良くしたいと考えて動けば、必ず素敵な村になる!
- ・小さいことはいいことだの精神!小さいものを大事にしていく。
- ・今の集落の絆はなくなる。自主防災組織で集落(単位)絆を。
- ・子供を大切に、高齢者も安心して生活できる環境を作ることで、転入者を増やす。そのためには現住人たちが力を合わせて「村づくりにつとめる」ことが大切。
- ・地域(各区)で支える原村
- ・隣近所が繋がれるコンパクトな集落づくり
- ・活力ある移住者の力を引き出せる環境づくりを。(30年の住民)
- ・新住民(?)が環境の良さを享受するだけでなく、積極的にお返しをしなくてはならない。
- ・すばらしい環境や守ってきた村に人へ感謝を示すべき。(移住者)
- ・新旧の人たちが、お互いに尊敬できるように、理解できるように。
- ・元から住む人と移住者が協調、融和できる村に。(まだ乖離している)→移住者
- ・原村育ち、原村で生活している人と、新来者(昭和20年以降、昭和40年代以降)が互いにrespectしている村→移住者
- ・山麓開発以来、当初想定していなかった行政課題をはっきりとさせ、村民として共通課題にしたい。→想定外のことへの対処
- ・原村に住むことに誇りがもてること。「これ」というお気に入りが入りすぐ言えるようなものをつくり出す。
- ・死ぬまでここ原村で生活する、安心してそう決心できる村。(防災・福祉)
- ・人が集まる場を作り、どんな世代の人も出入りでき、交流のできる所を作る。→人の活用、交流
- ・「〇〇できる人」の登録制と活用。教育分野/地域支援事業に参画していただく。(有償、無償に関わらず)→人の活用、交流
- ・地元やUターンのボランティアベースでもがんばっている若者のバックアップ(←大人が)→若者
- ・子どもと大人の間での交流が少ない。あいさつなど簡単な事からでも、もっとやるべきである。
- ・住民の中に多くの技術を持っている人がいるので、大いに活用したらどうか。
- ・村づくりを自分のこととして実行できる人材育成のため、師が教えるより自ら考える学習を!
- ・地域への子どもの参加、親の参加、おじいちゃん、おばあちゃんの参加。一緒に作る村。
- ・集落単位で対応できる体制作り。防災、介護、教育、スポーツ、健康づくり
- ・区内で相談できる体制づくり(交通、教育、一時預かり、生活把握、雪かき、家事、災害、ボランティア育成など)
- ・横の繋がりの強化
- ・自主防災コミュニティ活動で暮らし易い地区を作る。
- ・村民が助け合える村づくり“おとなりさん活動”
- ・原村公民館1ヶ所だけでなく、各地区で講座など人の集まれる機会づくり。(企画者、活動支援金)村全体も大切だけど、地区での活動も大切に。
- ・新たなイベントも楽しいが、今ある伝統行事も出来るだけ残していく。

課題、施策へのキーワード

- ◆ “ふるさと”づくりと人・地域コミュニティの形成
  - 子ども世代(時代)を大切にしたい村づくり
  - 年齢、先住民、移住者問わず交流できる地域、人のコミュニティ形成支援

【村づくり】に関する現状、問題点、提言など

- ・10年後も原村であってほしい。(統合せず)広域での事業も行いながら。
- ・自立した経済
- ・自主、自立(律)の村
- ・未来を担う人材を育む村
- ・安全、健康、長寿の村
- ・「空き家ゼロ」の村
- ・税金は10年後の村の姿を見据えて使う。無料化が全てではない。
- ・環境、産業、子育て、福祉、教育の総合的なプランニングを。
- ・医療費の増加を心配するより、健康作りに力を入れ、結果的に医療費が減少できる。→健康
- ・高齢者、乳幼児、青少年～すべての年齢層対象に、健康・スポーツ産業の振興 →健康
- ・人口は6,500人程度が良い。多くなると施設等が中途半端になるため。
- ・あたり前の目標でなく、柱になる構想が必要。すべてが線で結びつくような構想。
- ・総合計画はそれぞれの項目を住民で実施できる体制づくりを！
- ・今回のワークショップに誘った高校生に言われた一言です。→「こども議会で言っても実現しなかったから、どうせ今回もムダ」こんな思いを子ども達にさせない村を。
- ・村づくりに対して子どもの声を聞いていく
- ・総合計画をつくる際、私達の意見はどのように反映され生きてくるのか。
- ・そもそも、これまでの10年間振り返ってできたこと、できなかったことを整理してから踏まえ考えるべきではないのか。
- ・今回出てきた具体的な意見を、どういった方法で誰が村の施策に組み込んでいくのかがわかりにくい。
- ・理念・目標項とボトム型？(ピラミッド型)に組み立てられているが、それぞれ関係性があるので、ネットワーク型にできないものか。
- ・この中から「10年後までにやろう」ではなく、「10年後のために“今”からやろう！」という計画をお願いします。この5回のワークショップに参加した村民の声をムダにしないで下さい。
- ・高校生がいなかったグループから子どもについての意見が少なかったのが気になりました。このワークショップを小・中・高を対象として実施して下さい。(その時はぜひCHUKOらんどチノチノに声をかけて下さい。全力で協力したいです。)
- ・「どんな村にしたいか」←小・中・高校生に聞いて下さい。(10年後をイメージできる人、10年後に主役になっている人)

課題、施策へのキーワード

- ◆自立した「原村」の存続、住民参加の村づくり
  - 市町村合併せずとも存続する自立した原村づくり
  - 住民、子どもが参加、反映した施策検討、実行